

感性働かせ、「自分ごと」の学びを

図画工作

の内容を上・下で紹介する。

◇

図画工作科では、絵の具、紙、粘土などの材料を使い、表現と鑑賞の活動に取り組み。自らの感性を働かせた体験活動がなければ、授業は成り立たないともいえる。重要なのは子どもが体験し、学びを「自分ごと」にすること。小学校図画工作科の「体験と学習」に関して、岡田京子・東京家政大学教授に聞いた。そ



岡田 京子

東京家政大学教授 ①

体験と学習

12

図画工作科の学びと関連付けると、子どもが自らの体を使って感じたり考えたりする体験活動は重要である。学習指導要領では、随所に「手や体

・能力について示された「共通事項」のところである。ここでも「自分の考えたりする体験活動は感覚や行為を通して」と述べられている。

しかし、体験すればよいというわけではない。留意すべきは、表現や鑑賞の活動を通して、育成する資質・能力を見据え

世の中には多くの情報があふれている。自らの身体を通して感じたり考えたりしたことで、当事者意識が高まっていく。その際、子どもの考えを引き出す教師の問い掛けも重要になる。

こうした点を押さえた上で、学習指導要領を詳しく見ていきたい。例えば、表現における発想や構想に関しては、活動に対して「感覚や気持ちを生かし」や「感じたこと、想像したことから」とい

さらに、目標に示されている「学びに向かう力、人間性等」に関わる部分では、「感性を育み」という言葉が使われている。

図画工作科の授業は体験活動が多く、子どもたちが楽しそうに活動に取り組む姿がよく見られる。こうした様子は教師にとって安心材料になる

こうした工夫により、子どもたちの「これをやってみよう」という創造しようとする豊かな心も育まれる。感性を働かせた体験活動がなければ、「自分にとって必要な情報」（自分ごと）にはならないともいえる。

そのために、教師の大半は体験の重要性を認識しているだろう。

図画工作科の学習では、子どもが自らの身体性を発揮し、さまざまな活動を通して実際に体験する機会が多い。

図画工作科の授業は体験活動が多く、子どもたちが楽しそうに活動に取り組む姿がよく見られる。こうした様子は教師にとって安心材料になる

図画工作科の授業は体験活動が多く、子どもたちが楽しそうに活動に取り組む姿がよく見られる。こうした様子は教師にとって安心材料になる

自作撮影、コメント考え振り返り

図画工作

〈13〉



岡田 京子 東京家政大学教授 ①

コロナ禍が明け、現在は通常の教育活動が戻ってきている。しかし、新型コロナウイルスが流行している間は、子どもたちが学校に通えないような時期が続いた。久しぶりに登校ができたとき、図画工作科の授業で、子どもたちは通常よりもさらに「夢中でつくる」ような状況があったと聞いている。

体験と学習

このような子どもたちの姿は多くの学校で見られ、教師も元気をもらった。

このような子どもたちの工作科でも、表現と鑑賞は多くの学校で見られ、教師も元気をもらった。ICTの活用が広がって活用されている。例えば、鑑賞の資料を、授業づくりに関する自分の手元で拡大するなど大きく変わらない。

また、注目したいキーワードもある。図画工作科の解説の中で示されている「つくり、つくりかえ、つくる」である。子どもが自ら使いたいものを考え、実際につくって使ってみる。「少し使いた手が良くない」と思ったら再びつくり直す。この一連を一人で体験できるという点も図画工作科ならではの改善点を見つけ、解決につながるための行動を起す。これも体験の一つであり、子どもたちが大人になってからも必要不可欠な力である。

学校で、周りに友達がいる状態で、子どもたち自身が何かを体験する重要性を改めて認識できたと考えている。友達と一緒に活動することで、材料と向き合いながら「みんなでも何かをしたい！」という意欲が一層高まるからである。そう考えると、学校教育の集団活動や直接体験の重要性を再認識できたと感じている。

取り組みである。留意したいのは、振り返りを単なる作業としないようにすることである。大切なのは、作品を撮影したり、言葉でまとめたりしながら、感じ取ったり考えたりすることだ。画像を撮ってコセ、身体を通して深い学習メントを書く過程も学習として成立させることがうことである。

GIGAスクール構想により、1人1台端末の学習環境が整った。図画撮影したり、言葉でまとめたりしながら、感じ取ったり考えたりすることだ。画像を撮ってコセ、身体を通して深い学習メントを書く過程も学習として成立させることがうことである。

表現や鑑賞の活動を通して学びのプロセスの中で、体験が有機的に働かかか教師の働き掛け次第である。育成を目指す資質・能力を明確にし、その上で意図的に指導できるかにより、子どもの成長は大きく変わってくる

表現や鑑賞の活動を通して学びのプロセスの中で、体験が有機的に働かかか教師の働き掛け次第である。育成を目指す資質・能力を明確にし、その上で意図的に指導できるかにより、子どもの成長は大きく変わってくる

表現や鑑賞の活動を通して学びのプロセスの中で、体験が有機的に働かかか教師の働き掛け次第である。育成を目指す資質・能力を明確にし、その上で意図的に指導できるかにより、子どもの成長は大きく変わってくる